

現地を訪問して想うこと

秋澤美江（2014年・産業社会学部卒）

大学に進学して以降、自分の出身である北関東、そして東日本大震災で多大な影響を受けた東北地方は、気にかかる事は多々あれども、中々現地に向かうことのできない場所でした。

知識も浅い故に被災地に赴いた所で何が出来るだろうと尻込みしていた自分に、勇気を出して現地へ行くことを決断させてくれた今回のツアーは、本当に素晴らしいものでありました。

バスの中から見た、あの日から三年が経過した被災地の風景。まさに兵どもが夢の跡との言葉が浮かぶ、黄色い花が咲き乱れた草原のような、かつて住宅地であった場所。目に焼き付いて離れません。被災地は再生の鼓動を打っている。確かに土は、植物は、逞しくそこに根を張り生命の営みを再始動させている。そう思わせる一方で、しかしこの地に人間が再び居を構えられるようになるのは、果たして今後何年先のことなのか。そんな事も思わせる風景でした。

被災の悪夢から再び立ち上がりかけている人々に数多巡り合わせて頂けたことも、今回のツアーにおける大きな収穫です。特に工場や企業の、津波や地震で生産ラインや従業員を失ってしまった人々が、また逞しく生産を続けている姿には、力強さと安心感を覚えました。

復興に向けて歩む東北・宮城県の、震災の悲惨さを受け止めつつも前向きに動き出している姿を、二日間で見させてもらった旅でした。私にできる事は彼らの産業を応援することだと感じました。これを機会に、何度も現地を訪れて、今後も長い付き合いを継続させていこうと思います。